

2.9 生物

2.9.1 有明海・八代海等を中心に生息する生物(固有種、希少種等)

有明海・八代海等には、国内で本海域を中心に生息する生物が数多く存在している。特に、有明海及び八代海では、国内で両海域固有、又は国内で両海域を主な分布域とする大陸系遺存種が数多く確認されており¹⁾、また、干潟域を中心に数多くの鳥類が飛来する。それらの中には環境省レッドリスト(環境省, 2020)及び海洋生物レッドリスト(環境省, 2017)に掲載されている種も複数みられる(表 2.9.1-1)。

表 2.9.1-1 有明海・八代海等を中心に生息する主な生物

区分	名称
魚類	<u>アリアケシラウオ</u> (CR)、 <u>アリアケヒメシラウオ</u> (CR)、 <u>エツ</u> (EN)、 <u>ヤマノカミ</u> (EN)、 <u>ムツゴロウ</u> (EN)、 <u>コイチ</u> (EN)、 <u>ワラスボ</u> (VU)、 <u>ハゼクチ</u> (VU)、 <u>タビラクチ</u> (VU)、 <u>ナルトビエイ</u> (NT)、 <u>アリアケアカエイ</u> (DD)、 <u>デンベエシタビラメ</u>
甲殻類	<u>ヒメモクズガニ</u> (CR)、 <u>チクゴエビ</u> (NT)、 <u>ハラグクレチゴガニ</u> (NT)、 <u>アリアケヤウラガニ</u> (DD)、 <u>アリアケガニ</u>
貝類	<u>アゲマキ</u> (CR+EN)、 <u>ヤベガワモチ</u> (CR+EN)、 <u>センペイアワモチ</u> (CR+EN)、 <u>シマヘナタリ</u> (CR+EN)、 <u>ゴマフダマ</u> (CR+EN)、 <u>ハイガイ</u> (VU)、 <u>ウミタケ</u> (VU)、 <u>スミノエガキ</u> (VU)、 <u>アズキカワザンショウ</u> (VU)、 <u>ウミマイマイ</u> (VU)、 <u>シカメガキ</u> (NT)、 <u>クマサルボウ</u> 、 <u>クロヘナタリ</u>
その他無脊椎動物	<u>オオシャミセンガイ</u> (CR)、 <u>アリアケカワゴカイ</u> (EN)、 <u>ベイカ</u> (NT)、 <u>ウチワゴカイ</u> (NT)、 <u>スジホシムシモドキ</u> (NT)、 <u>スジホシムシ</u> (NT)、 <u>ミドリシャミセンガイ</u> (DD)、 <u>アリアケカンムリ</u> 、 <u>ヤツデシロガネゴカイ</u>
鳥類	<u>ヘラシギ</u> (CR)、 <u>コシヤクシギ</u> (CR)、 <u>カラフトアオアシシギ</u> (CR)、 <u>クロツラヘラサギ</u> (EN)、 <u>ツクシガモ</u> (EN)、 <u>ホウロクシギ</u> (VU)、 <u>アカアシシギ</u> (VU)、 <u>ズグロカモメ</u> (VU)、 <u>ツバメチドリ</u> (VU)、 <u>カラシラサギ</u> (NT)、 <u>ヘラサギ</u> (DD)
植物(塩生植物)	<u>シチメンソウ</u> (VU)

注) 1. 下線部は、国内において有明海・八代海等にのみ分布する種を示す。

2. 鳥類は、有明海・八代海等の干潟等に生息する「環境省レッドリスト 2020」掲載種を示す。

3. ()は、環境省レッドリスト及び海洋生物レッドリスト掲載種の 카테고리区分を示す。

カテゴリーの概要

絶滅 (EX) : 我が国ではすでに絶滅したと考えられる種

野生絶滅 (EW) : 飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種

絶滅危惧 I 類 (CR+EN) : 絶滅の危機に瀕している種

絶滅危惧 I A 類 (CR) : ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧 I B 類 (EN) : I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

絶滅危惧 II 類 (VU) : 絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧 (NT) : 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

情報不足 (DD) : 評価するだけの情報が不足している種

絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) : 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

出典: 佐藤正典, 田北徹(2000): 有明海の生きものたち: 干潟・河口域の生物多様性, 海游舎, 396pp

環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」

環境省(2017)「海洋生物レッドリスト」をもとに環境省が作成した。